

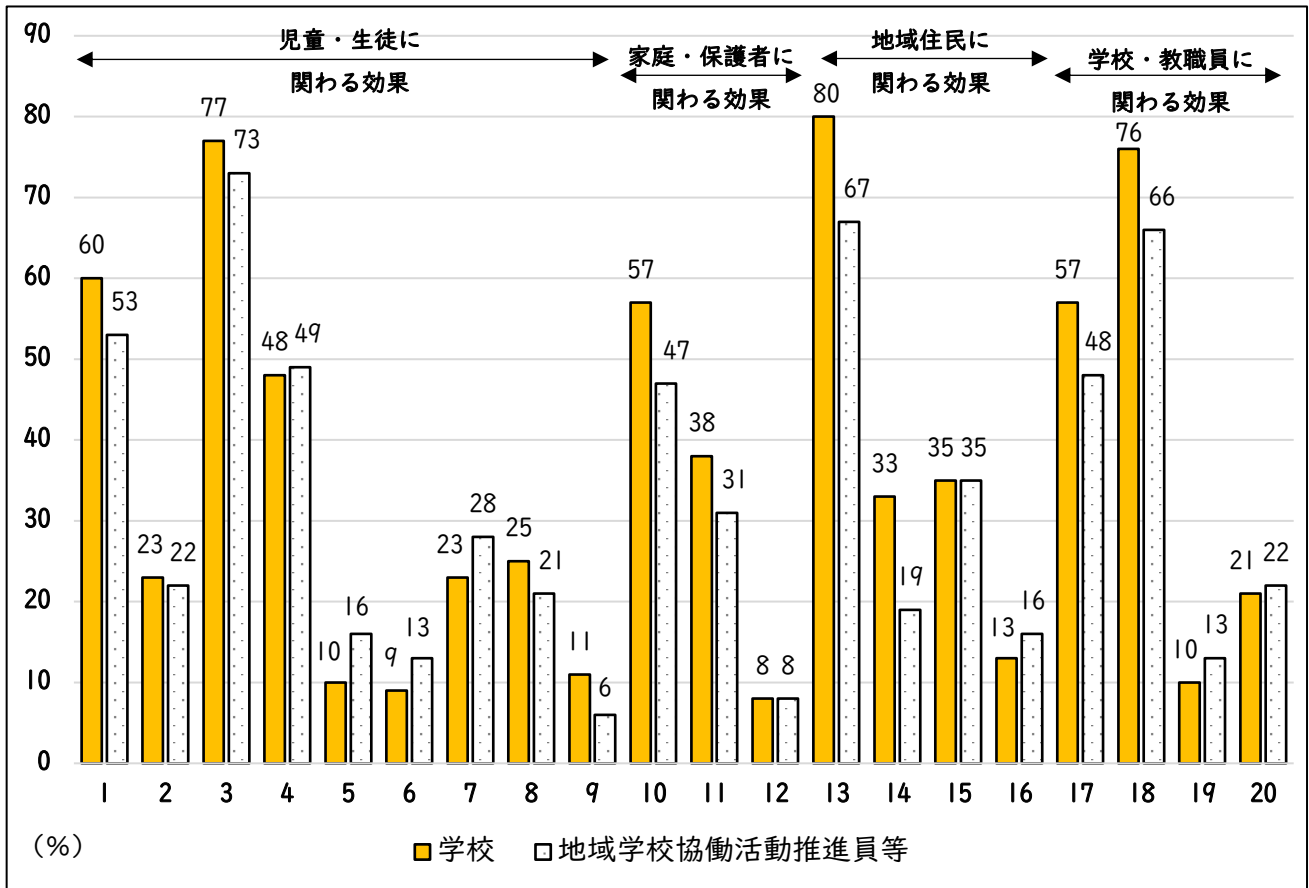
【事業実施校・地域学校協働活動推進員等共通調査】

令和2年度奈良県学校・地域パートナーシップ事業にかかる調査結果

事業の効果について

事業実施校と地域学校協働活動推進員等との比較

パートナーシップ事業の効果について

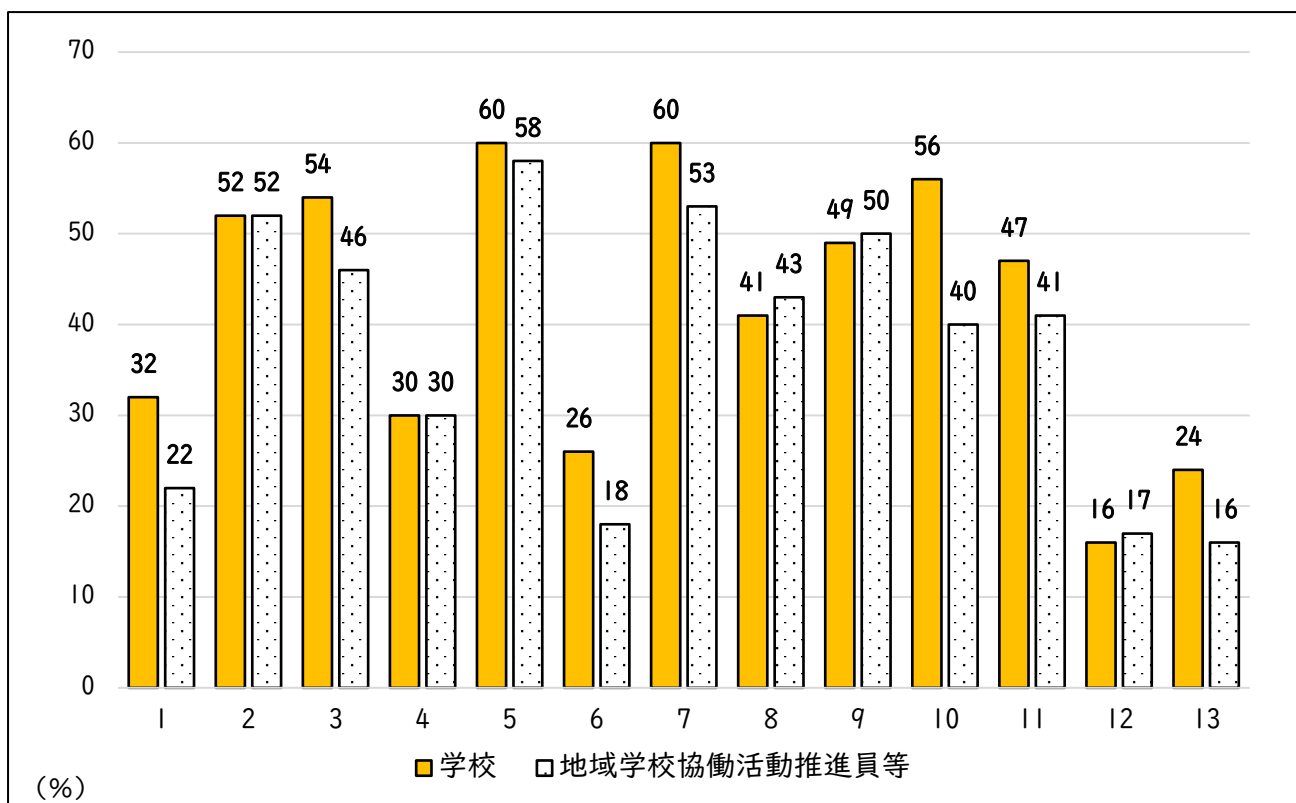


- | | |
|-----------------------------|-------------------------------|
| 1. 子どもの学習に対する興味関心や意欲の向上 | 11. ボランティアへの保護者の参加者数 |
| 2. 子どもの学習習慣の改善 | 12. 家庭の教育力の向上 |
| 3. 子どもが挨拶を積極的に行うこと | 13. 地域住民の学校に対する理解の深化 |
| 4. 子どもたちのコミュニケーション力の向上 | 14. 地域の教育力の向上 |
| 5. 子どもが自らを律し、進んで決まりを守ること | 15. 地域住民の生きがいづくりや自己実現 |
| 6. 子どもがリーダーシップを発揮する場面が増えること | 16. 地域住民による地域課題の解決に向けての活動 |
| 7. 子ども自身が率先して、人のために行動ができる | 17. ボランティアが学習支援することによる教育内容の充実 |
| 8. 部活動における技術の向上(中学校のみ) | 18. 子どもたちの通学時の交通安全、防犯体制の充実 |
| 9. 部活動における参加率の向上(中学校のみ) | 19. 子どもたちの問題行動や不登校の減少 |
| 10. 保護者の学校に対する理解の深化 | 20. 教職員が子どもと向き合う時間の増加 |

実施校、地推員等が共に効果を感じている内容は、以下の通りです。

- | | |
|----------------|-----------------------------|
| 【児童・生徒に関わる効果】 | 「子どもがあいさつを積極的に行うこと」 |
| | 「子どもの学習に対する興味関心や意欲の向上」 |
| 【家庭・保護者に関わる効果】 | 「保護者の学校に対する理解の深化」 |
| 【地域住民に関わる効果】 | 「地域住民の学校に対する理解の深化」 |
| 【学校・教職員に関わる効果】 | 「子どもたちの通学時の交通安全、防犯体制の充実」 |
| | 「ボランティアが学習支援することによる教育内容の充実」 |

効果を生み出す要素について



- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| 1. 地域学校協働本部における熟議の充実 | 8. 地推員等とボランティアとの円滑なコミュニケーション |
| 2. 学校がボランティアに期待する活動内容の明確化 | 9. 教職員の理解と協力の確保 |
| 3. 学校が望むボランティアの確保 | 10. PTAの理解と協力の確保 |
| 4. ボランティアの力量や意欲の向上 | 11. 地域住民組織等の理解と協力の確保 |
| 5. ボランティアの特技や経験を活かした活動の実施 | 12. 本事業の活動場所を学校内に設置 |
| 6. 地推員等の力量や意欲の向上 | 13. 地域の教育力の向上 |
| 7. 地推員等と学校との円滑なコミュニケーション | |

実施校、地推員等が共に、「ボランティアの特技や経験を活かした活動」や「地推員等と学校との円滑なコミュニケーション」が、事業による効果を生み出す要素であると感じている割合が高くなっています。

多くの実施校において、登下校の見守り活動や様々な学習支援が実施されており、本アンケートにおいても、「子どもがあいさつを積極的に行うこと」や「子どもの学習に対する興味関心や意欲の向上」に、効果を感じている実施校、地推員等の割合が高くなっています。また、事業による効果を生み出す要素として、「ボランティアの特技や経験を活かした活動」や「地推員等と学校との円滑なコミュニケーション」が重要であると感じている割合が高くなっています。

学校、家庭、地域が「子どもの教育課題」を共有し、その課題解決に向けた「協働活動」を進めていくことが、事業実施による子どもたちへの教育的な効果を共に感じることが出来る取組につながります。

地域による学校への「支援」体制から、熟議により学校と地域が共有した目標に向かって、お互いに対等の関係性を持って活動を進める「協働」体制の構築をめざしていくためにも、地推員等を中心として、ボランティアと学校の三者の円滑なコミュニケーションを図ることが重要です。